



[証券コード6155] **高松機械工業株式会社**

TAKAMIZ

**第47期
中間事業報告書**

平成19年4月1日から平成19年9月30日

株主の皆様へ



代表取締役社長

高松 喜与志

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご支援、ご鞭撻を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社は平成19年9月30日をもって第47期上半期（平成19年4月1日から平成19年9月30日）を終了いたしましたので、ここに営業の概況ならびに中間決算の状況についてご報告申し上げます。

営業の概況

当上半期の市場動向および成果

当上半期のわが国経済は、原材料の高騰や米国景気の先行き不安などの懸念事項がありましたが、企業収益の改善が続き、雇用情勢が改善に向かうなど、緩やかな景気回復基調にありました。

工作機械業界では、建設機械や重厚長大型産業向けが順調に推移し、外需では特に中国、韓国、インドを中心としたアジアや、欧州向けが好調であり、41ヶ月連続で単月受注1,000億円を超えるなど、高水準の受注状況が続いてきました。また、自動車業界向け受注におきましても、いまだ本格的な設備投資の再拡大を行っていない状況ではありますが、微増ながらも前年同期を上回りました。この結果、当上半期における業界受注高は、前年同期比10.5%増加の7,980億円となり、日本工作機械工業会では2007年暦年見通しを当初より1,000億円増加させた1兆5,000億円台に変更しております。

このような状況の中、国内外において展示会やプライベート・ショー等に積極的な出展を行って、多くのユーザに直接製品に触れられる機会を提供し、製品PRすることで受注確保をはかってきました。当上半期では、前期1年間の実績に匹敵する14回行っております。また、海外市場への対応としまして、市場拡大の見込める中国において新たに営業拠点を設置するとともに、トルコ、ロシアにおきましても新たに販売代理店を設置しました。あわせて、生産能力の増強も進めており、前期末に設備したマシニングセンタによって、生産可能台数を増加させただけでなく、加工精度が向上したことで工数低減をは



MECT2007(名古屋)



本社工場内作業風景



友嘉高松工場(中国)

ることができ、またリードタイムの短縮や原価低減活動を進めてきたことでコスト削減に繋がりました。その他、生産体制の見直しにより、効率的な体制を構築してきました。

以上のように、生産能力の増強と納期短縮をはかるとともに積極的な営業活動を展開してきた結果、当上半期における工作機械受注高は、54億82百万円(前年同期比37.6%増)と前期までの減少傾向から歯止めがかかり、反転してきました。当社の連結業績におきましては、売上高は80億13百万円(前年同期比7.3%増)、営業利益は9億73百万円(同10.3%増)、経常利益は10億12百万円(同15.9%増)、中間純利益は6億4百万円(同23.5%増)となりました。

今後の見通し

日本経済の先行きにつきましては、原油などの原材料高や不透明感の増す世界経済による影響等には留意する必要がありますものの、景気回復は緩やかに継続すると見込まれております。工作機械業界におきましても、基本的には世界の主要マーケットが同時好況にあり、今後も好調に推移していくものと見込まれております。

このような状況で当社では、徐々に設備投資を増やしつつある自動車業界に対して積極的な提案型営業を行っていき

ます。新製品の受注活動を強化していくとともに、製品体系の見直しも進め、シェア拡大をはかっていきます。また、海外展開におきましては、引き続き中国市場の拡大を狙っていき、杭州友嘉高松機械有限公司とともに生産台数の増加を進めていきます。開発におきましても、現在開発中の製品の早期市場投入をはかっていくほか、今後の市場環境およびユーザーニーズをにらんだ新製品開発を進めていきます。また、開発段階からの製品原価低減をはかっていきます。

IT関連製造装置事業では、コスト削減をはかるなどによって安定した受注の確保に努めるとともに、計画的生産を進めていくことで、売上高の確保にも努めていきます。

自動車部品加工事業では、新規受注ラインの早期安定稼働をはかり、売上への寄与を進めていきます。また、今後も事業規模の拡大を推進し、営業活動を積極的に行うことで受注の確保をはかります。

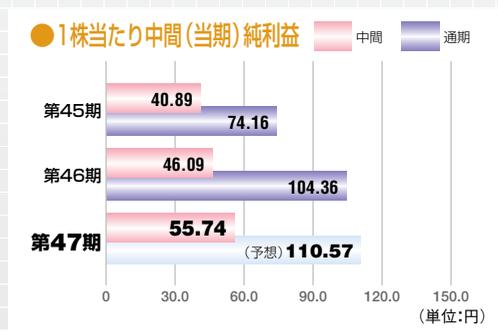
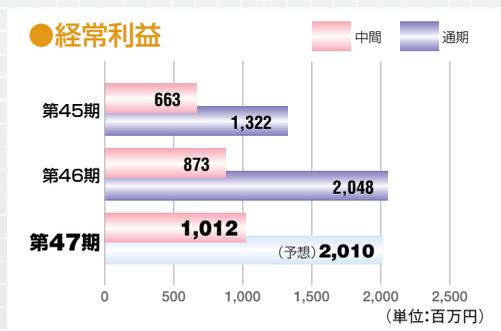
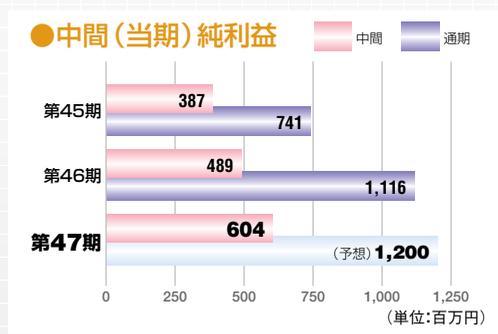
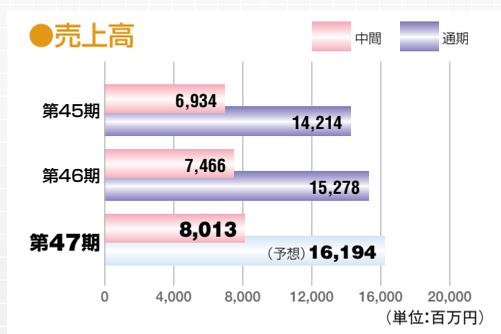
これらの営業戦略と上期の実績を勘案しまして、通期見通しにおいて、若干の上方修正を行っております。

今後も企業価値を向上させるために、市場の拡大や生産規模の拡大などを推進して事業の拡大をはかってまいりますので、より一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

業績の推移

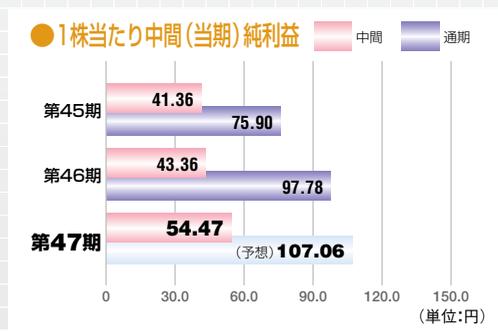
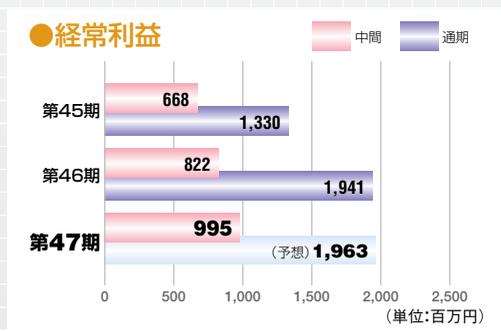
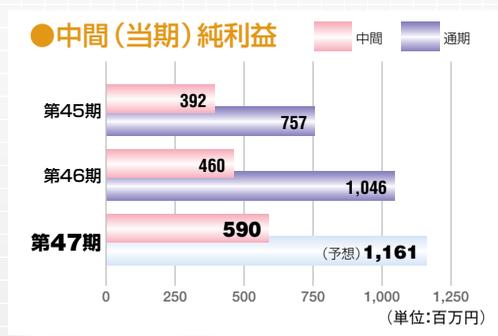
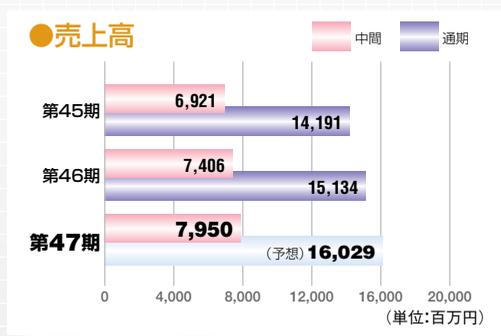
連結業績ハイライト

科目	第45期 (平成17年度)	第46期 (平成18年度)	第46期中間期 (平成18年度)	第47期中間期 (平成19年度)
売上高 (百万円)	14,214	15,278	7,466	8,013
営業利益 (百万円)	1,300	2,031	882	973
経常利益 (百万円)	1,322	2,048	873	1,012
中間(当期)純利益 (百万円)	741	1,116	489	604
純資産額 (百万円)	6,108	8,230	7,631	8,754
総資産額 (百万円)	13,029	15,416	14,363	15,469
1株当たり中間(当期)純利益 (円)	74.16	104.36	46.09	55.74
1株当たり純資産額 (円)	626.75	759.22	709.35	805.65



単独業績ハイライト

科目		第45期 (平成17年度)	第46期 (平成18年度)	第46期中間期 (平成18年度)	第47期中間期 (平成19年度)
売上高	(百万円)	14,191	15,134	7,406	7,950
営業利益	(百万円)	1,307	1,932	828	975
経常利益	(百万円)	1,330	1,941	822	995
中間(当期)純利益	(百万円)	757	1,046	460	590
純資産額	(百万円)	6,098	8,148	7,597	8,650
総資産額	(百万円)	13,012	15,274	14,244	15,343
1株当たり中間(当期)純利益	(円)	75.90	97.78	43.36	54.47
1株当たり純資産額	(円)	625.73	751.69	706.19	796.03



中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当中間期 (平成19年9月30日)	前中間期 (平成18年9月30日)	前期 (平成19年3月31日)
(資産の部)			
流動資産	10,745	9,925	10,601
現金及び預金	2,870	2,562	2,586
受取手形及び売掛金	5,826	5,523	6,087
有価証券	120	—	—
たな卸資産	1,668	1,539	1,667
その他	286	316	265
貸倒引当金	△ 26	△ 15	△ 6
固定資産	4,724	4,437	4,815
有形固定資産	3,972	3,733	4,067
建物及び構築物	1,318	1,336	1,331
機械装置及び運搬具	949	732	1,020
土地	1,522	1,522	1,522
その他	181	141	193
無形固定資産	2	2	2
投資その他の資産	749	702	745
投資有価証券	431	384	447
保険積立金	104	91	97
その他	231	266	223
貸倒引当金	△ 17	△ 39	△ 22
資産合計	15,469	14,363	15,416

(単位：百万円)

科目	当中間期 (平成19年9月30日)	前中間期 (平成18年9月30日)	前期 (平成19年3月31日)
(負債の部)			
流動負債	5,903	5,696	6,277
支払手形及び買掛金	4,374	4,289	4,238
短期借入金	516	560	549
未払法人税等	444	401	605
製品保証引当金	17	29	27
賞与引当金	199	163	175
その他	351	251	681
固定負債	811	1,035	907
長期借入金	173	459	305
退職給付引当金	450	416	432
役員退職慰労引当金	182	153	158
その他	5	6	11
負債合計	6,714	6,732	7,185
(純資産の部)			
株主資本	8,640	7,515	8,112
資本金	1,835	1,835	1,835
資本剰余金	1,826	1,800	1,821
利益剰余金	5,025	3,955	4,507
自己株式	△ 46	△ 75	△ 51
評価・換算差額等	107	115	117
その他有価証券評価差額金	89	112	108
為替換算調整勘定	18	2	9
新株予約権	6	—	—
少数株主持分	0	0	0
純資産合計	8,754	7,631	8,230
負債純資産合計	15,469	14,363	15,416

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期	前中間期	前期
	(自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)	(自 平成18年4月1日 至 平成18年9月30日)	(自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)
売上高	8,013	7,466	15,278
売上原価	5,827	5,481	11,083
売上総利益	2,185	1,985	4,195
販売費及び一般管理費	1,212	1,103	2,163
営業利益	973	882	2,031
営業外収益	46	20	54
営業外費用	7	29	37
経常利益	1,012	873	2,048
特別利益	9	2	17
特別損失	0	16	18
税金等調整前中間(当期)純利益	1,021	859	2,048
法人税、住民税及び事業税	431	396	895
法人税等調整額	△ 14	△ 27	36
少数株主利益	△ 0	0	0
中間(当期)純利益	604	489	1,116

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結株主資本等変動計算書

当中間連結会計期間(自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)

(単位：百万円)

	株主資本				評価・換算差額等				新株 予約権	少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計			
平成19年3月31日残高	1,835	1,821	4,507	△ 51	8,112	108	9	117	—	0	8,230
中間連結会計期間中の変動額											
剰余金の配当			△ 86		△ 86						△ 86
中間純利益			604		604						604
自己株式の処分		4		5	9						9
株主資本以外の項目の中間連結 会計期間中の変動額(純額)						△ 19	9	△ 10	6	△ 0	△ 3
中間連結会計期間中の変動額合計	—	4	517	5	527	△ 19	9	△ 10	6	△ 0	524
平成19年9月30日残高	1,835	1,826	5,025	△ 46	8,640	89	18	107	6	0	8,754

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期	前中間期	前期
	(自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)	(自 平成18年4月1日 至 平成18年9月30日)	(自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,031	1,047	1,476
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 960	△ 1,238	△ 1,491
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 242	715	508
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	0	5
現金及び現金同等物の増加額又は減少額	△ 166	525	499
現金及び現金同等物の期首残高	851	319	319
新規連結に伴う現金及び現金同等物期首残高	—	32	32
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	685	877	851

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間単独財務諸表

中間貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当中間期 (平成19年9月30日)	前中間期 (平成18年9月30日)	前期 (平成19年3月31日)
(資産の部)			
流動資産	10,652	9,741	10,480
固定資産	4,690	4,502	4,794
有形固定資産	3,943	3,712	4,036
無形固定資産	2	2	2
投資その他の資産	745	788	755
資産合計	15,343	14,244	15,274
(負債の部)			
流動負債	5,882	5,618	6,224
固定負債	810	1,028	901
負債合計	6,693	6,647	7,125
(純資産の部)			
株主資本	8,554	7,484	8,040
資本金	1,835	1,835	1,835
資本剰余金	1,826	1,800	1,821
利益剰余金	4,939	3,925	4,435
自己株式	△ 46	△ 75	△ 51
評価・換算差額等	89	112	108
その他有価証券評価差額金	89	112	108
新株予約権	6	—	—
純資産合計	8,650	7,597	8,148
負債純資産合計	15,343	14,244	15,274

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間株主資本等変動計算書

当中間会計期間(自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)

(単位：百万円)

	株主資本					評価・換算差額等	新株 予約権	純資産 合計
	資本金	資本剰余金 合計	利益剰余金 合計	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金		
平成19年3月31日残高	1,835	1,821	4,435	△ 51	8,040	108	—	8,148
中間会計期間中の変動額								
剰余金の配当			△ 86		△ 86			△ 86
中間純利益			590		590			590
自己株式の処分		4		5	9			9
株主資本以外の項目の中間 会計期間中の変動額(純額)						△ 19	6	△ 12
中間会計期間中の変動額合計	—	4	504	5	514	△ 19	6	501
平成19年9月30日残高	1,835	1,826	4,939	△ 46	8,554	89	6	8,650

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間損益計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)	前中間期 (自 平成18年4月1日 至 平成18年9月30日)	前期 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月31日)
売上高	7,950	7,406	15,134
売上原価	5,796	5,470	11,071
売上総利益	2,153	1,936	4,063
販売費及び一般管理費	1,178	1,107	2,131
営業利益	975	828	1,932
営業外収益	28	21	47
営業外費用	8	27	38
経常利益	995	822	1,941
特別利益	9	1	22
特別損失	1	16	29
税引前中間(当期)純利益	1,004	807	1,934
法人税、住民税及び事業税	425	371	850
法人税等調整額	△ 12	△ 24	37
中間(当期)純利益	590	460	1,046

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。



個人向け会社説明会を実施しました

当社では、IR活動の一環として、また、より会社のことを知っていただくことを目的として、個人向け会社説明会を開催しております。当上半期におきましても、地元にて2回開催しました。

平成19年8月3日(金)に行いました説明会は、他社との合同開催でありましたが、約150名の方が来場されました。開催後のアンケート結果をみましても、説明内容が分かりやすかったとの評価を受け、回答者全員の方に当社を理解していただくことができました。

また、平成19年8月18日(土)には当社単独で開催し、ご来場の方々と社長との質疑応答を行うことによって、コミュニケーションを深めました。



EMOショー(ドイツ)、MECT2007(名古屋)に出展しました

平成19年9月17日(月)から6日間、ドイツのハノーファーにて、EMOショーが開催されました。総来場者数が16万6千人に達するほどの大きな工作機械展示会であり、当社も6機種を出展しました。ヨーロッパ地域にて当社ユーザーが待ち焦がれていた新型複合旋盤「XY-2000 PLUS」を初披露したことで、多くの方々に当社ブースへ足を運んでいただきました。評判も上々であり、今後に確かな手応えを感じております。

平成19年10月17日(水)～20日(土)には名古屋市にて開催されたMECT2007にも出展し、環境に配慮した製品の展示・加工実演に興味を持っていただくことができました。



環境への優しさを提案します

最近、企業の環境問題への取り組みが世間でも注目を集めております。当社でも環境に優しい製品群を開発しておりますので、『「環境への優しさ」が標準仕様です。』をキャッチコピーとして販売を促進しております。また、製品だけではなく、環境に優しい加工方法であるセミドライ加工もユーザーに提案しております。これは、大量の切削油を使用する方法ではなく、加工点にごく少量の植物油性切削液を圧縮エアで霧状に吹き付ける方法であり、切削油の循環による消費電力や廃油を生じなくさせます。

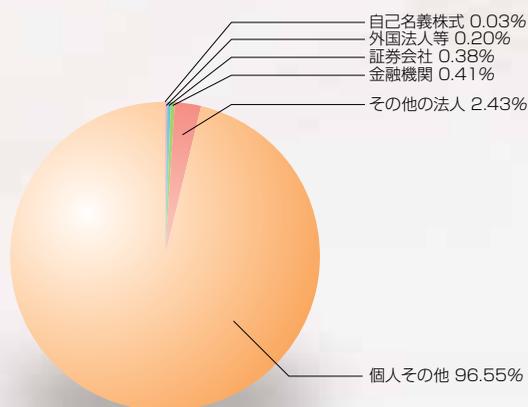
展示会等において実演・紹介していき、ユーザーに関心を持っていただくことで環境問題に役立っていきたいと思います。

株式の状況 (平成19年9月30日現在)

株式の状況

- ①発行可能株式総数 ……18,000,000株
- ②発行済株式総数 ……11,020,000株
- ③1単元の株式数 ……100株
- ④株主数 ……3,460名

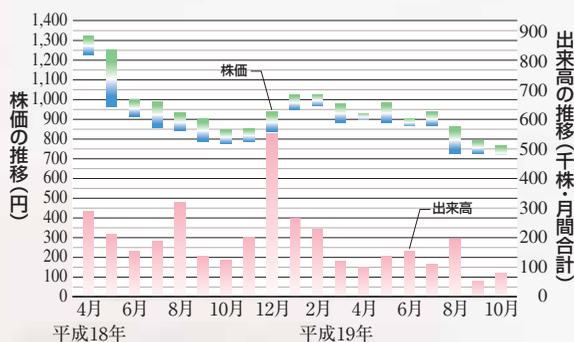
所有者別分布状況



大株主

株主名	当社への出資状況	
	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
高松喜与志	1,093	9.92
日本生命保険相互会社	480	4.36
北国総合リース株式会社	433	3.93
高松機械工業社員持株会	424	3.85
株式会社北国銀行	408	3.70
三井住友海上火災保険株式会社	408	3.70
高松機械工業取引先持株会	380	3.45
明治安田生命保険相互会社	360	3.27
高松明毅	332	3.02
株式会社朝日電機製作所	280	2.55

株価インフォメーション



(注) 株価および出来高は、平成18年4月20日まではジャスダック証券取引所におけるものであり、平成18年4月21日以降は東京証券取引所におけるものであります。

1株当たり配当額



会社の概要 (平成19年9月30日現在)

会社概要

商号	高松機械工業株式会社
設立	昭和36年7月
資本金	18億3,539万円
本社	石川県白山市旭丘1丁目8番地
従業員数	345名
子会社および関連会社	TAKAMATSU MACHINERY U.S.A., INC. TAKAMATSU MACHINERY (THAILAND) CO., LTD. 株式会社タカマツエマグ 杭州友嘉高松機械有限公司
ホームページアドレス	http://www.takamaz.co.jp

役員

代表取締役社長	高松喜与志
常務取締役(生産本部担当)	前田充夫
常務取締役(営業本部担当)	中西与平
取締役(営業本部副本部長兼国内営業部長)	川上友安
取締役(管理本部長)	溝口喜義
取締役(品質保証部長)	水上新喜
取締役(生産本部副本部長兼製造部長)	宮川隆
取締役(国内営業部業務部長)	徳野穰
常勤監査役	砂崎友和
常勤監査役	池上佳信
監査役	田井正樹

ネットワークとサービス体制



アンケートのご報告

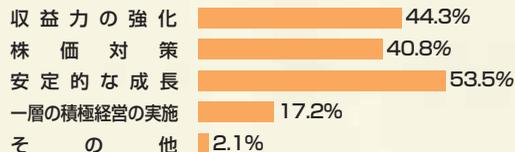
第46期事業報告書に同封しました「株主アンケート」におきましては、たくさんのご回答をいただき誠にありがとうございました。アンケートの集計が完了しましたので、その一部ですがご報告させていただきます。

アンケート回答数 716名
アンケート返信率 19.9%

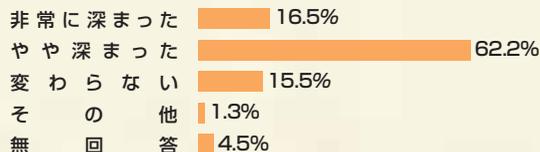
● 当社の株式を購入された理由はなんですか? (複数回答可)



● 今後、当社の経営に対して何を望みますか? (複数回答可)



● 事業報告書をご覧になって、弊社に対する理解は深まりましたか?



295名の皆様よりいただいたご意見・ご質問の中からその一部をご紹介します。貴重なご意見をいただきありがとうございました。

- ぜひ東証1部を目指してほしい (30代男性)
- 海外戦略を積極展開してほしい (50代男性)
- 安定成長していることをもっとPRしてほしい (40代男性)
- 業績から見て株価が低いように思えますが (70代男性)
- 中期戦略の具体的な中身が知りたい (60代男性)
- 株主優待制度が必要 (50代男性)
- 中国、東南アジア方面へもっと投資を (70代女性)
- 増配などで株価を上げ、知名度を上げることは必要 (30代男性)

株主の皆様からいただいた貴重なご意見を真摯に受け止め企業価値の向上およびIR活動の拡充に努めてまいります。今後とも更なるご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
株主確定基準日	(1)定時株主総会 3月31日 (2)期末配当金 3月31日 (3)中間配当金 9月30日 (4)その他必要ある時 あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社証券代行部
(郵便物送付先) 電話照会先	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社証券代行部 ☎0120-175-417 (住所変更用紙のご請求) 自動音声認識装置による24時間対応 ☎0120-176-417 (その他のご照会)
同取次所	住友信託銀行株式会社全国各支店
公告の方法	当社ホームページに掲載 http://www.takamaz.co.jp
上場証券取引所	東京証券取引所市場第二部
お問い合わせ先	管理本部 企画経理部 TEL 076-274-1411 (直通) FAX 076-274-1418

ホームページについて <http://www.takamaz.co.jp>

より多くの皆様当社をご理解いただくために、会社概要をはじめ、決算情報等をホームページにおきまして掲載しております。



TAKAMAZ
高松機械工業株式会社